

1 研究テーマ

「読解力が身につく、読書力・表現力につながる国語科学習」 ～「読むこと」における学習の工夫と改善～

2 はじめに

「読む」力というのは、子どもたちにとって、学習の基礎基本となるのはもちろんだが、それだけにとどまるものではなく、これからの人生をも支える大きな力であると考えられる。しかし、今、その「読む」力の低下が問題となっている。そこで今回、「読むこと」の指導の在り方について、何がどのように求められているのか明らかにし、子どもたちが楽しく主体的に学びながら「読む」力を身につける授業をめざしたいと考えた。

3 研究の概要

(1) 研究の目的

- 確かな読解力を身につけ、その身についた力が豊かな読書力・表現力へとつながる国語科学習の展開の開発
- 身につけさせたい読解力とつなげたい読書力・表現力とを明らかにした系統表と年間指導計画の作成

(2) 研究の仮説

- 身につけさせたい読解力と読書力・表現力を明確化かつ意識化させることによって、主体的に「読むこと」の学習に取り組むことができる子どもが育つだろう。
- 国語の学習で読書につなぐ多様な読書活動・表現活動を設定すれば、読書に親しみ、自己の読書活動を拓いていこうとする子どもが育つだろう。
- 学年に応じて身につけさせたい読解力と読書力・表現力を明確にした系統表と年間指導計画を作成し、それをもとに学習を展開すれば、子どもの「読む」力を系統的かつ計画的に高めることができるだろう。

4 研究の内容

(1) めざす「読むこと」の学習について

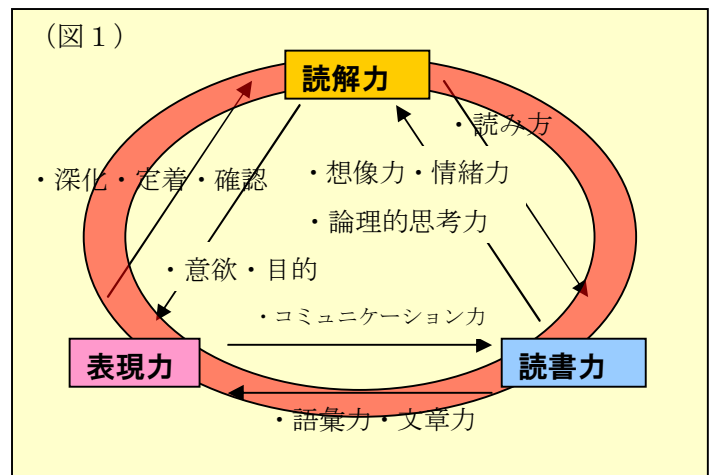
近年実施された全国ならびに県内の調査で明らかになった「読む力」の課題は、これまでの正確に読み取ることを重視した読解力のとらえ方をかえなければならないことを示している。また、子どもの意識調査でうかんだ課題からは、「読むこと」の授業を「わかる・好きな・役に立つ」授業に変えることが急がれる。

このように、読解力のとらえ方をあらため、新しい授業観に立ったとき、読解力を読書力・表現力につなげる学習を展開することが有効ではないかと考えた。(図1) そこで、この3つの力を国語の時間にどのようにつなげるか、そのつなげ方の工夫を考え、実践することにした。

(2) 検証授業について

検証授業では、読解力と読書力・表現力をいかに効果的につなぎ、子どもたちに3つの力を身につけさせることができるか、そのつなぐ工夫について実践研究することにした。

検証授業(1) 「『どうだ 知らなかっただろう』を作ろう」 (説明的文章5年「人はねむる 動物もねむる」)



読解力・読書力・表現力をつなぐ学習

読解力のとらえ方と授業観の転換



つなぐ工夫①…身につけさせたい読解力を明らかにし、つなぐ表現力と読書力を位置づけた系統表を作成した。

つなぐ工夫②…指導案に3つの力のつながりを明示した。(図2)

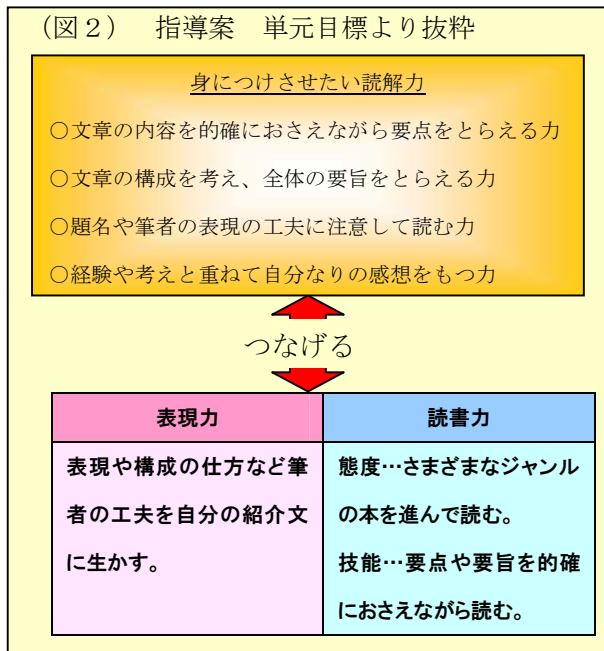
つなぐ工夫③…3つの力を効果的につなぐ単元の構想をした。

つなぐ工夫④…二次の要点指導に読書へのアニメーションを取り入れ、クイズ作りを楽しみながら要点をまとめさせた。そして、身につけた要点をまとめる力を使う活動を展開した。

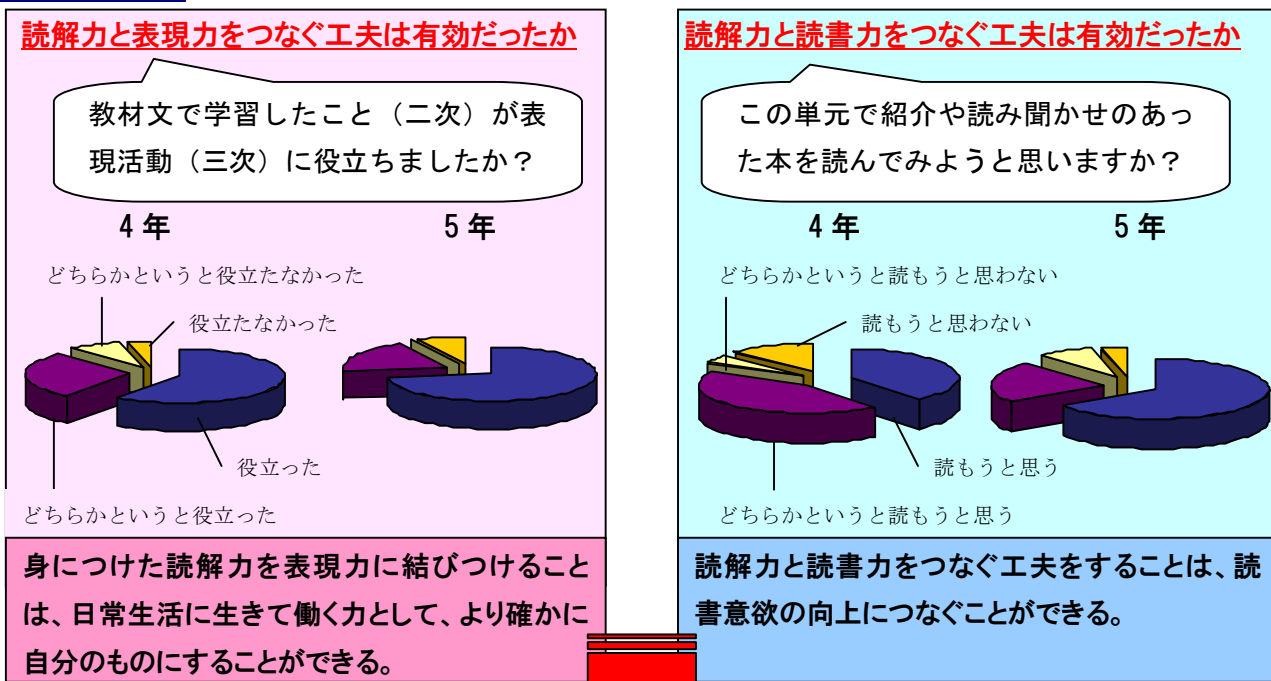
つなぐ工夫⑤…二次で学んだ筆者の表現の工夫を、三次では実際に自分の表現に生かすことができるように展開した。

つなぐ工夫⑥…本単元のねらいを達成させるために、事前に本の内容、文章の形態、量などを吟味し、選書した。ブックトークで紹介し、教室に特設したミニ文庫においた。

検証授業(2) 「『語り』に挑戦しよう」(文学的文章4年「ごんぎつね」)においても同様の工夫を実践した。



5 研究のまとめ



読解力を読書力・表現力とつなぐ学習を展開することによって、

- 子どもは、「読むこと」の有用感を実感し、主体的な学びを拓くことができる。
- 今、まさに求められている読解力を育てると同時に、読書力・表現力を高めることができる。

6 今後の課題

- 読解力を表現力・読書力につなぐ、3つの力を効果的に高めることができる単元を開発する。
- 身につけさせたい力をより確かに効果的に指導できるように、自己研修に努める。
- 系統表・年間指導計画・到達状況チェックシートの活用と改善を図る。

7 おわりに

今回の研修を通して、これからの「読むこと」の学習のあり方について、そのめざす方向性が見えてきたように思う。楽しくてわかりやすい「読むこと」の学習を展開し、一人一人の子どもに、「読む」力を保障することができるよう、今後もさらに研修を深めたい。